

# 平成28年度第1回さいたま市商業等振興審議会

## 会議録

- 1 日 時 平成28年7月20日（水）午後1時30分～午後3時15分
- 2 会 場 市役所議会棟2階 第7委員会室
- 3 出席者 伊藤委員長、近藤副委員長、松野委員、守屋委員、田中委員、佐藤委員、  
渡邊委員、岩瀬委員、井上委員（経済局長）  
吉沢商工観光部長、矢作商業振興課長、高橋商業振興課副参事、斎藤係長、  
中村主任、松本主任、石田主任、野原主事  
中央区総務課井出主査、浦和区総務課地域商工室荒木室長、  
岩槻区総務課観光経済室佐藤室長
- 4 会議の公開・非公開の別 公開（傍聴人は0人）
- 5 次第
  - (1) 委員及び事務局紹介
  - (2) 開会
  - (3) 議事
    - ・さいたま市空き店舗活用地域コミュニティ活性化推進事業補助金交付要綱に基づく事業計画の認定について
  - (4) 報告
    - ・客引き防止条例制定に向けた動向について
    - ・平成28年度商業振興施策について
  - (5) その他
  - (6) 閉会

### 【議事概要】

- (1) 委員及び事務局紹介
- (2) 開会
- (3) 議事

伊藤委員長の議事進行により、事務局から、「さいたま市空き店舗活用地域コミュニティ活性化推進事業補助金」について制度の概要及び手続きの流れ並びに今回申請のあった事業計画の概要について説明した後、次のとおり質疑が行われた。

≪質疑・意見≫

(伊藤委員長)

本事業については、今回初めての申請であり、今後のモデル事業にもなる。事務局においても厳しいチェックはしていると思うが、本審議会としてもきちんと評価して、あるいは意見を出しあって、モデル事業らしく仕上げていきたい。

(近藤副委員長)

空き店舗対策として、いろんな市町村で様々な取組が進められている。お店を運営するというより人が集まるという効果でいえば、学童は最適なのではないかと思う。

今後、どういうふうに関係づくり、つながりをつくっていくのが課題ではないか。たとえば「一日店長体験」というのもあったが、地域の商店会の協力がどこまで得られるのか。商店街のお祭り・イベントなどもあると思うので、まち全体が子どもを見守っていくような体制づくり、ということが課題となる。

(伊藤委員長)

学童保育の運営の実績のある団体の申請で、すでに2施設運営しているうちの1施設を改修するということがよいか。

(事務局)

今まで2つの学童を運営しており、定員がかなり多くなっていることもあり、その解消のために空き店舗を活用して、今回、3つ目の学童を開設するものです。

(渡邊委員)

内容的には、非常に濃い審査をしていると思う。

事業観点からいうと、学童保育という事業では、児童数の変遷の把握が運営上、重要な要素となっている。特に、当該地域で3つ目の施設になるということなので、児童数が一挙に少なくなると運営が難しくなるのではないか。事業の継続性にかかわることなので、今後審査を行う際には、小学校や幼稚園の児童数の変遷を考慮するようにしてもらいたい。

月額家賃の補助ということで、賃料が月額20万円、坪単価が5,500円ぐらいである。本案件については、立地も考えると高いとは思わないが、今後審査を行う際には、申請されている家賃の正当性を見極めてもらいたい。

(事務局)

今後審査する際には、ご指摘のあった観点も考慮してまいります。

(松野委員)

対象となる児童は、当該団体がこれまで運営している施設とは異なり、日進北小の児童に限定せず、他の学校の児童も受け入れるのか。

(事務局)

日進北小の児童に限定しています。学童については、学区内にある施設で受け入れるのが慣例となっております。

(事務局)

渡邊委員の継続性という意見に対する補足となりますが、本事業では36か月、家賃を補助するというので、継続して学童保育として実施していただくことがコミュニティ維持につながるものと認識しており、そういった観点から審査は行っております。

(渡邊委員)

最近では、人口動態も非常に激しいので、学童に限らず、小学校自身もクラス閉鎖するエリアもでてくる。

(事務局)

当該地域は、大規模校ということもあり、堅調に推移しているだろう、という認識は持っています。

(田中委員)

本物件は、メイン通りから一本路地に入るのか。

(事務局)

宮原駅西口の駅前のメインストリートから一本北側の道に面して立地しています。

(佐藤委員)

非の打ち所のない事業計画だが、商店会の方がこれで本当にいいのか。最後はそこが問題なのではないか。

シャッターは開いたが、それでどういうふうになるのか。

(守屋委員)

さいたま市内でも空き店舗はどこにもある。

申し込みが1件というのはいかかなものか。申し込みが殺到するような魅力のある空き店舗対策が必要。

われわれ市商連が求めているものとは違う方向にいつていると感じる。商店会で一生懸命やっているところへもっと手を差し伸べてもらった方がありがたい。

(岩瀬委員)

アイデアとしてはよいと思う。放課後児童クラブということで地域に貢献している。商店街の活性化につながるかどうかは疑問もあるが、ないよりはいいのではないかと。みなさん制度を御存じないから申請が1件だけしかなかったのではないかと。

知り合いで地域の活性化をやってみたいという方もいるので、もっとアピールすれば、応募する人はいるのではないかと。

(事務局)

守屋委員の御意見の商店街の活性化については、既存の商店街活性化推進補助事業の中で、商店街の活性化・連続性確保・賑わいの創出に関して商店街が行う空き店舗活用事業については引き続き支援を行ってまいります。

本事業は、コミュニティの活性化により、空き店舗が解消され、それに伴い商店街の

活力が維持される、というものです。

応募件数が少ない、との指摘についてですが、今回はじめてということもありPRがうまくいかなかった点もあったかと思います。社協・NPO法人には案内を出し、応募のあった団体のほかにも数件相談はあり、相談の中で、今回対象となるのは難しいということもありました。

次回に向けて積極的にPRを実施し、応募件数が増えるようにしたい、と考えております。

(渡邊委員)

今年度予算を使い切らなかった場合、来年度の計画はどうなるのか。

(事務局)

来年度も予算は同額を確保していきたいと考えています。

(井上委員)

空き店舗活用はかなり前からいろいろ取り組んでいる。当初は商店会が主体として活用できる事業が施策の中心だったが、実例としてなかなか難しいところがあった。そういう中で、あらたな活用の仕方として、コミュニティの活性化という新しい制度ができた。

空き店舗となるところは、人の動態が他のエリアと比べると少ないところなので、かなり営業力が強い事業を行わなければ、お客さんを誘導するのは難しい。逆に人の動態が多いところでは空き店舗自体が発生しないし、家賃も高い。

コミュニティの場合には、営業的な行為ではなく、補助金も未来永劫出るものではないので、次年度以降の事業継続するための仕組み作りを考えられているかが大事になる。

今回の学童の場合は、学童としての需要があり、市から委託を受けられる見込みがあるということで、来年度以降は市の委託事業ということで、収支が計画されている。そういうことで本事業は、事業継続性があるといえる。

(伊藤委員長)

先日、日本海側のある中核都市に行ったが、昼間歩くと年寄りしかいない。昼間だから子どもたちは学校に行っているし、若い人は郊外の店舗の店員になっているからその商店街には若い店員さんがいない。店員さんがいないからまちが若くみえないんだと思う。

「まち・ひと・しごと」だと国はよく言っているが、仕事ができる場所をまちの中につくってほしい。

(伊藤委員長)

皆さんに異議がなければ、審議会としては、今回の事業計画を承認することとしたい。

委員の皆さんから出された意見については、事務局から事業者にアドバイスをして進めて行ってもらいたい。

#### (4) 報告

- ・客引き防止条例制定に向けた動向について

事務局より、資料2に基づき、客引き防止条例制定に向けた動向について報告を行い、次のとおり意見が述べられた。

##### (佐藤委員)

ぜひ、強烈にすすめてもらいたい。「この店、満席だから、こっちおいで」というのが悪質にあたるのか、というのはあるが、営業している側からすると迷惑だ。

南銀座は埼玉の歌舞伎町だと思っている。そのにぎわいが大事なのもわかるが、今はあまりにも客引きが多すぎるし、強引すぎるので、なにがしかの規制は必要ではないかと考える。

##### (事務局)

新宿区や豊島区で条例を制定する中で、締め出された者がさいたまに流れてきて、南銀座エリアの中に入ったところではなく、大宮駅を出たところで客引きをやっている状況にあります。

非常に悪質化している中で、ビルのオーナーの立場から客引きを防止するための措置を要望する声が以前からある一方で、ビルの店子の立場からは、そこまで厳しくされると商売あがったりなので、自分たちでもやらないようにする、自分の店の前だけは認めてもらいたいという意見もあります。

安心安全という観点で条例制定を進めている中で、経済局として商業振興という観点も盛り込んでもらえればと考えているところです。

##### (渡邊委員)

近くに住んでいるが、南銀座には夜は入らないことにしている。

何を持って強引かは人の感じ方なので、難しいところもある。

明らかに、あの商店街の中のお店が、店の場所の前から堂々とやっている姿は、大宮駅前でありさいたまの顔として恥ずかしい状況。

客引きを置かないお店は客を自店に誘導することができない。それで公正公平な競争原理が成立するのか。客引きがもっとエスカレートする誘発行為に結びついているのではないか。

正当な営業行為がどこまでなのか議論が必要である。活気のある商店街は飲食を中心として、それはそれとして商店街の魅力であり、個性の一つだと思う。

##### (伊藤委員長)

都市はディープなところがあつた方がいいと思っている。

上手に残しつつ、コントロールしていくことが大事。

##### (井上委員)

現状は、地元の業者ではない者が、プロの客引きを雇って客引きをやっている。

(松野委員)

毎日、通勤で通っている。チーム大宮というまちおこしの団体があり、清掃活動も行っていて、大宮駅東口から南銀座までゴミ拾いをしたり、道に落ちているガムをはがしたりしている。南銀座の入口の付近はガムの吐き捨てが多い。おそらく客引きが多く、いつもガムをかんでいることが影響しているのではないかと。

過度な客引きを規制することも大事だし、ガムは捨てないといったマナーの向上も必要だと思う。

・平成28年度商業振興施策について

事務局より、資料3に基づき、平成28年度商業振興施策について報告を行い、次のとおり質疑が行われた。

(近藤副委員長)

さいたま市にはいろんな地域資源があるので、どれを使うか、というところだと思う。

昨年度、プロスポーツチームを活用した事業を実施して、お客さんの入りとかはどうだったのか。

(事務局)

大宮駅周辺の情報誌については、NACK5スタジアムで配布したが、1日で3千、4千部捌け、地元商店の方からも好評だったと聞いています。正確な人数を把握するのは困難です。

浦和駅の街バルでは、1冊4枚つづりのチケットを1000冊販売したので、延べ4000人が、参加店舗で1ドリンク1フードを楽しんだこととなります。

参加店舗からは、新規顧客を獲得する上でありがたい企画だったという声をもらっています。

(近藤副委員長)

今年も同じような形で準備を進めていると思うが、こういうことを続けていると、心配なのは、また同じことをやっているとしたんだけお客様からすると飽きてくるということ。

プロスポーツチームとの連携ということであれば、商業施設以外の取り組み、たとえば埼玉スタジアムの周辺にはいちご農園もあるので、現地着のツアーをやるとか、地域の方とプロスポーツチームとの連携を考えてもいいのではないかと。

(事務局)

今回培ったノウハウもいかして、関係部署と相談して検討していきたい。

(近藤副委員長)

最近、メディアでも埼玉のスイーツが取り上げられることが多くなってきているが、

どうしても点と点というイメージがある。

さいたま市の農産品、ブルーベリーやいちごなどがとれるということも生かしてスイーツのブランドとして作り上げていく考えがあるのか。今後、どんな事業展開を考えているのか聞かせてほしい。

(事務局)

さいたま市は消費量が全国的に高い傾向にあり、浦和駅周辺等、スイーツ店が集中しているところがあり、スイーツバルを実施したところです。

こういうものが名物で、これを使ってスイーツを作っています、ということではなくて、あくまで洋菓子店・和菓子店・カフェが集積しているということで、さいたま市にこんなスイーツ店があるということをPRする目的で実施しています。

これまでは地域限定的なかたちとなっていたので、今年度以降はさいたま市全体でこんないいお店がありますよ、ということでPRできたらと考えています。

(近藤副委員長)

自転車d eスイーツバルと記載があるが、実際に皆さん自転車で回っていたのか。

(事務局)

特に制限したわけではないが、さいたま市のコミュニティサイクルのエリア内にある店舗で実施したため、そういう名称にしております。

(事務局)

先程、地元産品を使ってとの意見もありましたが、6次産業化というイメージもあるかと思いますが、現状は店舗を中心にやっていることもあるので、地元産品を使ってということが可能かどうか、時季にもよるとは思いますが検討していきたいと思います。

また、「このお店はこの逸品がおいしい」といったPRの仕方も検討していけると考えています。

(伊藤委員長)

さいたま市は、「盆栽」、「うなぎ」、「人形」と、バラエティに富んだ一級品がそれぞれの地区が作ってきた。それをブランド力として発信してもらいたし、相互に協力する関係ができればイノベーションも期待できるのではないかと。

(田中委員)

スイーツ店というと洋菓子屋さんが多いのではないかと。和菓子屋では会議所を中心に「ついたちまんじゅうの会」というのがあって、1日だけ大宮駅のコンコースやコルソで販売している。できれば和菓子も一緒に加えてもらえるとありがたい。

(事務局)

和菓子を含めた甘いものということでやっています。

(田中委員)

「ついたちまんじゅう」も一緒に広めていってもらいたい。

(田中委員)

商店街照明施設等維持管理補助事業についてだが、昨年度と比べて予算額がだいぶ増えている。

LEDが増えてきたが、石油が高くなって元に戻ってしまった。補助率を2分の1から3分の2に引き上げてもらえているといいと思う。

(松野委員)

商店街活性化キャンペーン事業の参加店舗が、昨年度500店舗ぐらい減っているが、今年の参加店舗数の見込みはどうなっているのか。

(田中委員)

今年は参加店舗が増えるように努力している。

(守屋委員)

昨年は、プレミアム付商品券と時期が重なったため、商店会も商品券に目いっぱいになってしまい、キャンペーンの参加店舗が少なくなりましたが、今年は大丈夫だと考えている。

ただ、昨年度のキャンペーンの応募数は前年と比べても横ばいか若干増えている。

(5) その他

(6) 閉会